

広陵町教育委員会だより

令和4年度 2月号 2月10日発行

広陵町教育委員会
北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001 文責・編集 植村



鶯(うぐいす)の 待ちかてにせし 梅が花 散らずありこそ 思ふ子がため

2月の万葉集 巻5-845 門氏石足(もんじのいそたり)
(鶯が待ちかねていた梅の花よ、散らないで欲しい。梅を愛でる人たちのために)



教育における不易と流行を意識して!

暦の上では立春も過ぎ、雲間からもれる太陽の光にもほのかな暖かさが感じられる頃となりました。まだまだ寒い日が続いていますが、辺りに目をやれば、梅の花が咲き始め、役場のまわりに植えられた麦も青々とした葉を伸ばし、ヒバリのさえずりも聞かれ、春はすぐそこまで来ているようです。

新型コロナウイルス感染症の第8波もようやく下火になってきましたが、一方で1月中旬からはインフルエンザが流行し始め、学校・園では一部学級閉鎖等が行われています。特に受験期の子どもたちにとって、コロナウイルス同様にインフルエンザにも感染しないよう徹底した予防をしてもらいたいと思います。



さて、この時期は学校・園において、先生方が一年間を振り返り、教育活動の成果や課題を明らかにする中で、次年度に向けての課題解決策の計画が進められています。子どもたちにとって、新年度が新たな友達や先生方との出会いによってワクワクと心が躍り、子どもたち一人一人の希望が叶う、笑顔溢れた楽しい学校・園の生活が送れるように教育委員会も、学校・園の応援団として新年度に向けて新たな事業を展開していこうと思います。

ところで、このたよりを読んでいただいている皆さんの中には、「不易と流行」という言葉を何度か耳にされたかと思います。「不易」とは、どのように時代が変わっても、決してその価値が変わらないもので、例えば、日本の年越しやお正月の行事、節分での豆まきなど地域における伝統文化等を「不易」と呼んでいます。一方、その時代の移り変わりとともに変えていく必要があるものを「流行」と呼んでいます。



「不易と流行」という言葉は、松尾芭蕉の残した言葉とされています。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」というものです。また芭蕉は、『不易と流行のその基は一つなり』とも言っています。

私がかつて40代の教員だった頃、「教育における不易と流行」という言葉をよく耳にしました。「教育における不易」とは、豊かな人間性、正義感や公正さを重んじる心、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心、人権を尊重する心、自然を

愛する心など、いつの時代、どこの国の教育においても大切にされなければならないものです。

また、「教育における流行」とは、社会の変化に無関心であってはならず、時代の変化とともに変えていく必要があるもので、「主体的、対話的で深い学び」とともに、最新の教育として、society5.0の超スマート社会を実現するためのICT教育であったり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」だと思えます。

子どもたちを取り巻く社会環境はめまぐるしい速さで変化しています。それらの変化に対応しつつ、これまでに培われてきた教育の根幹を大切にしながら、「教育における不易と流行」を意識して子どもたちのために、町民の皆さんのために、様々な教育施策を進めてまいりますので、何とぞご理解とご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

教育委員会関係団体の取組

書き初め大会ですばらしい作品が!

1月29日(日)の9時過ぎから、中央公民館において小学1年生から中学1年生を対象に「書き初め大会」を開催しました。

この大会の目的は、「書き初めの体験を通じて伝統文化に触れ、生涯を通して書道に親しむ心を醸成する」というものです。当日は小学生9人、中学生2人が参加し、学年毎の課題に取り組んでくれました。低学年は「うさぎ」「かぐら」、中学年は「うの年」「春の光」、高学年は「新春の光」「希望の春または夢と希望」、そして中学生は、自身の好きな文字でもいいということで「創造する心」「天地清新」をしたためていました。子どもたちは、講師先生のアドバイスを受けながら、それぞれの課題の文字に集中して取り組んでいました。そして、10枚以上練習したものの中から、ロビーに展示される自身が納得のいく1枚を選んでいました。



この取組には山村町長、吉村議長も駆けつけていただき、子どもたちが真剣な表情で筆を動かしている様子を見ていただくとともに、できあがった作品に賞賛の言葉をかけておられました。また、町長、議長、植村には事前に公民館から1年の抱負を毛筆で



したための依頼があり、町長は「衆知結集」(課題解決のために多くの人のアイデアを集めること)、議長は「堅忍不拔」(どんなことがあっても心を動かさず、じっと我慢して堪え忍ぶこと)、植村は「凡事徹底」(なんでもないような当たり前のことを徹底的に行うこと)の作品を子どもたちの作品とともに公民館ロビーに展示してもらいました。

裏面へ

「ツバメ」のダンスで大盛り上がり!

広陵町は、令和元年7月にSDGs未来都市の選定を受け、「広陵町産業総合振興機構(なりわい)」の産官学・連携による安全・安心で住み続けたいなるまちづくり」の取組や本町の実施する各事業を「SDGs」の理念と結び付け、本町の「SDGs」の取組を国内外に発信しつつ、持続可能なまちづくりとして取り組んでいます。また、小中学校においても「SDGs」について、



「総合的な学習の時間」をはじめ、教科横断的に様々な場面で子どもたちが学習しています。

そのような中、「SDGs」に積極的に取り組んでいることが評価され、NHK子ども向けSDGs番組シリーズ「ひろがれいろとりどり」のテーマソング「ツバメ」の奈良県バージョンへの参加依頼がありました。そこで、各小学校に参加を依頼したところ、今年創立150周年を迎える広陵北小学校が「一つの記念にしたい」という思いから、1年生に参加してくれることになりました。子どもたちは冬休みの期間中に、Chromebookの動画で先生が踊っている「ツバメ」のダンスを見ながら何度も練習していたそうです。

2月2日(木)午後1時から、はしお元気村で本番の撮影があり、最初は緊張していたようですが、数回の練習を重ねるうちに子どもたちは、だんだんとノリノリになってきて元気いっぱいの笑顔でとても上手に踊ってくれました。



このときの様子は、3月に放送される予定ですので、是非見てあげてほしいと思います。

3年ぶりのPTA会員研修会!

2月4日(土)の10時から、かぐや姫ホールにおいて3年ぶりとなるPTA会員研修会が開かれました。

講師は、素人落語家「広福亭ばい」こと杉本洋之さんと、英語教員として28年間、真美ヶ丘中学校でも勤務されました。50歳を機に退職されたあとは、少人数制学習塾を営むかわら、落語だけでなく陶芸や写真にも興味をもたれ、FM五條のラジオパーソナリティもされているマルチな才能を持った方です。

教員時代に子どもたちと関わった中で感じた子育てについて、面白おかしく様々なエピソードなどを入れながら、「楽しく子育て 楽しく自分育て」と題して講演してくださいました。

講演のはじめの20分ほどは、素人落語家として、古典落語の「金明竹」を披露していただきました。

噺の中身は骨董屋(古美術店)を舞台とした滑稽噺で、店の



小僧と客のおかしなやり取りを描いた前半部と小僧と店主の妻が上方者の難解な言葉に振り回される後半部の二部構成になっていて、言葉の面白おかしさで笑わせるだけでなく噛まずにすらすらと話すという落語の基礎的な技量も試されるとても難易度が高い落語でした。

会場では、初めて落語を聴かれた方々も多く、面白くおかしな場面では、たびたび大きな笑いの渦が起きていました。

落語の後は、本題の子育て論となり、はじめに「子育ての心得」として、乳児期は「肌を離すな」、幼児期は「肌を離せ、手を離すな」、少年期は「手を離せ、目を離すな」、青年期は「目を離せ、心を離すな」と子育ての極意を語っていただきました。

その後は、子どもに寄り添う言葉がけの大切さなど、子どもたちと関わった中で得られた数多くの経験と教訓を笑いも随所に入れながら楽しく話していただきました。そして、最後に「楽しく子育てすることは自分の成長も一緒に楽しむこと」につながると力説されました。

参加された保護者の皆さんや先生方もプロ並みのすばらしい落語と楽しい子育てのお話に笑みがこぼれ、心が和むとともにこれからの子育てに活力をもらった講演だったと思います。



Chromebookを活用した授業が進んでいます!

国がGIGAスクール構想として、一人1台の端末を配備したことを受けて、広陵町教育委員会は令和3年度からGIGAスクール構想推進委員会を立ち上げ、2か月に一度の委員会を開催する中で、Chromebookにおけるロイロノートやe-ライブラリーなどの活用の仕方や授業の事例等、情報交換等を行ってきました。



特に今年度は、広陵町内の小中学校では、Chromebookを活用した授業が進んでいる中、2学期からその授業参観をさせてもらっています。

年が明けた3学期、1月24日(火)に北小学校では、6年生の算数で、教室にある対称な図形を見つけて写真に撮り、線対称なのか点对称なのかを思考ツールを用いて分類したものをロイロノートで提出して互いに意見交換していました。



また、2月1日(水)に真美ヶ丘第一小学校では、5年生の社会で、東京オリンピック競技の他に海外メディアから賞賛されたコンビニエンスストアについて、「コンビニがどのように情報を生かしているかを考えよう」というめあてで授業されていました。日本とサモアのコンビニの違いをロイロノートに書いて提出し回答を共有するなど対話的な学習もされていました。

2月9日(木)には、真美ヶ丘中学校でのChromebookを活用した授業を1、2年合わせて7クラス参観させていただきました。この日は山村町長、松井副町長も同行していただき、学校現場でのICT教育が進んでいることを目の当たりにされていました。